

Sustainable Society Study (SSS)

1st Year High School



2024/04/10 SSS 授業（高校1年生）

1-1 Introduction

高校での初日、始業式のあとの最初の授業がこの第1回 SSS(Sustainable Society Study)講座です。この授業は文部科学省の委託事業である WWL(World Wide Learning)コンソーシアム構築支援事業のひとつのプログラムです。本校は拠点校となり、同志社大学等と協働して新しいカリキュラム開発を行います。

【3年間を通じて学ぶこと】

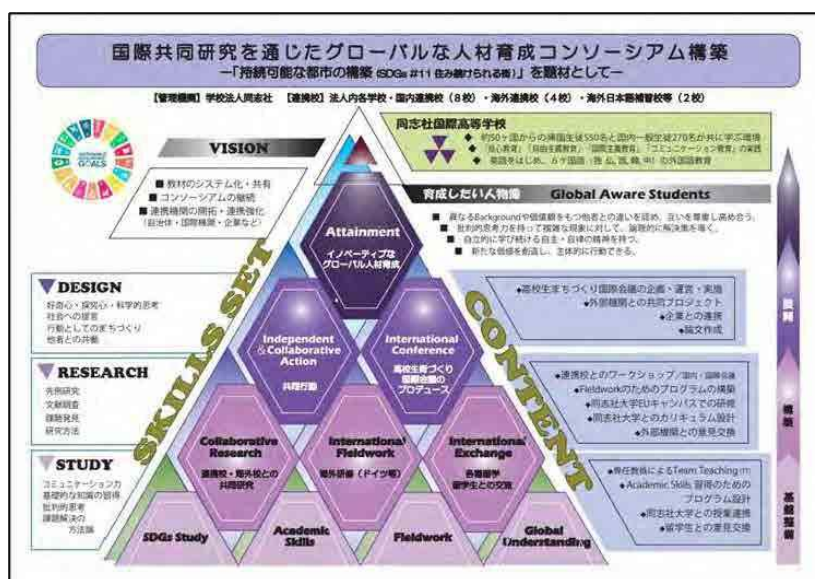
●SSS(Sustainable Society Study)/高校1年生・・・1年生全員（各学期1～2回）
コミュニケーション力、基礎的な知識の習得、
批判的思考、問題解決の方法論



●SSR(Sustainable Society Research)/高校2年生・・・選択科目（毎週）
先例研究、文献調査、課題発見、研究方法



●SSD(Sustainable Society Design)/高校3年生・・・SSRからの引き続き選択科目（毎週）
好奇心・探求心・科学的思考、社会への提言、行動としてのまちづくり、他者との共働



特に全体を通じて、
アカデミックスキルズ
（知識と思考をテーマ
のもとに表現する一連
のプロセス）が必要と
なります。どのような
解決策があるかという
ことを考えるにあたり、
直感的な思いつきやひ
らめきだけでは解決に
なりません。また一般
的にはその実現のため

に人、そして時間やお金を使うので、実行していくには説得力がなければいけません。

問題の分析→調査→考える、批判的な思考→話し合う、相談する→まとめる→発表する
答えのない、答えが決して1つではない社会問題に対して理論的な思考を行い、今後直面するであろうあらゆる課題に対しても通用する問題解決スキルを身に着けます。

【テーマはまちづくり】



当初 SGH(Super Global Highschool)の認定校として「環境問題」に取り組んだ背景から、WWL ではより発展的なテーマとして「まちづくり」をピックアップしました。これは 2000 年に国際連合で採択された SDGs(Sustainable Development Goals)にある 17 の目標の中の 11 番「インクルーシブで安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間環境を実現する」にあたります。環境はもちろん、交通、教育、

産業などの問題について理解し、問題解決策を探り、持続可能な理想的な街とその実現についてさまざまな手法を使い、また現場での考察も交えて学びます。SDGs という言葉を聞いたことのある人も初めての人も、まずは SDGs の掲げる「誰も取り残さない」という尊い理念と各目標について理解してみましょう。

【担当する教員】

この講座の大きな特色として、多様な科目の教員によるチームティーチングがあります。グローバル化が進み、多様な社会における問題解決にあたって答えは 1 つではありません。この講座でも、多様な角度から問題にアプローチします。そこで、さまざまな科目の教員が関わり 1 つの講座を受け持つというスタイルを取っています。今日は自己紹介として①海外の住みたいまちと②その理由について話してもらいました。

帖佐香織教諭（社会/A 組担当）

① パリ

② 日常生活がキラキラする。美意識が高い。公共交通の充実。
芦屋の河川敷もお気に入りです。様々な人との会話を楽しめる環境が好きです。

北川浩二教諭（美術/B 組担当）

① シアトル

② 芸術、カフェ文化、企業が元気。
大企業発祥の街としても興味深い。
地元、京田辺出身。講座を通してまちづくり、SDGs を受け止める側から関わる側に意識が変わりました。

谷口健太教諭（理科/E 組担当）

① タイ

② 温暖な気候、美しい海沿いで趣味のゴルフが一年中できる。
この講座を通して自分の住んでいる街への視点が変わりました。

坂下淳一教諭（理科/D 組担当）

① アムステルダム

② 運河の街。自転車が便利。散歩、素晴らしい図書館などの楽しみ。
京都在住、ほどよく都会で田舎、アカデミックな雰囲気も気に入っています。

吉田恵都子教諭（家庭科/C組担当）

① リヨン

② 美食の街、絹の街、ポールボキューズの街、河のある街。

まちづくりの研究として長野の芸術祭に行き、自然の豊かさと芸術の融合にも感動しました。

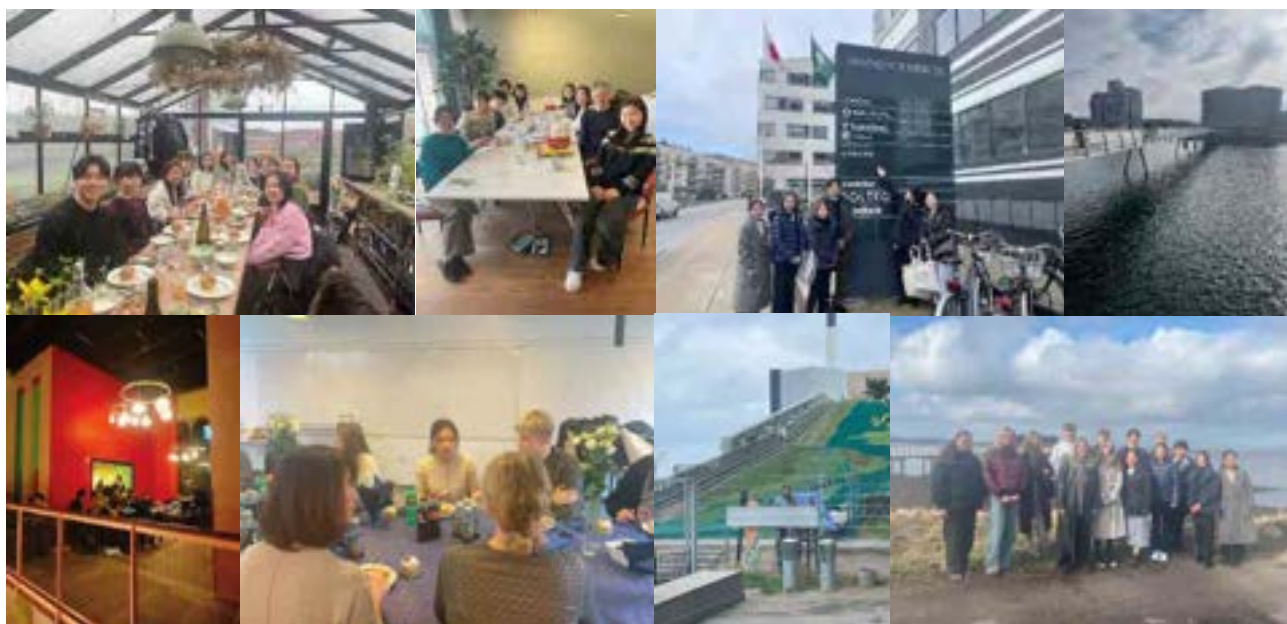
朴元炯怜教諭（聖書/F組担当）

① ソウル

② 自分のルーツでもあり、キリスト教をマジョリティーの視点から見てみたかった。食べ物がおいしい。東京出身、中高時代のキャンプで毎年訪れた自然豊かな長野大好きです。

この講座を担当する教員も、この講座を通して生徒たちと一緒に学ぶことを楽しみにしています。時には今日のようなホールで全員で、また時には各クラスに分かれてクラス単位、グループ単位で取り組みますが、それぞれの場面で、それぞれが果たせる役割を思う存分発揮して、どんどん前向きに参加して欲しいと思います。これから一年、まちづくりを楽しく学んでいきましょう！

【欧州フィールドワークの様子/2023 年度 SSD 受講生】



2023 年度 SSD 受講者より 6 名が 2024 年 3 月に欧州フィールドワークに参加しました。公共交通と公共スペースについて研究をまとめ、デンマークとスウェーデンを訪問した際には、自治体や現地でのさまざまな取り組みに触れ、また現地の高校生との交流もありました。フィールドワークの様子は別の記事で紹介する予定です。

1-2 まちづくりとは

中間テストの最終日の試験後、2回目の SSS 講座を実施しました。この講座でのテーマである SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくりを」について具体的に学びます。誰もがどこかの街に住み、そこで生活しています。住む場所について、これまでは自分の選択ではなかったため関心の低い人もいるかもしれません。でも、住人どうしが笑顔であったり、散歩道が気持ち良かったり、ふとしたことで幸せを感じるということはありませんか。逆に不便を感じていることもあるかもしれません。まちづくりとは、私たちの生活に日々深く関わっているテーマであることを感じる講座となりました。

【1】「まちづくり」とは何か？

「身近な居住環境を改善」し、「地域の魅力や活力を高める」持続的な活動のこと

●ハード面とソフト面

交通や施設や防災計画などのハード面だけでなく、それをどうやって利用するか、公共空間はどのように共有するか、福祉を含めたソフト面での発想も必要になります。

●誰が関わっているのか

行政、市民、学生、専門家などなど、さまざまな立場からの関わり方があります。まちづくりは行政の仕事と思っていた人も多いと思います。でも実は誰もが関わることでできる分野でもあります。



恵まれた人も決してそうでない人も、街には様々な事情のある人たちが一緒に暮らします。様々な年代、障がいの有無、育児中など、そして自分もいつどのような立場になるかわからない社会です。どういった立場の人も幸せに過ごせることが大切です。

↓

様々な視点からまちづくりを考えることが必要



【2】教員はどのような視点からまちづくりを捉えているでしょうか

教員それぞれが興味をもった書籍やイベントから紹介します。

書籍「Soft City-Building Density for Everyday Life」・・・帖佐香織 教諭

街は決してその枠組みだけが整っていればよいということではなく、あくまで人々がそこでどう過ごすか、快適に過ごさせているかが大切です。人のためのまちづくりを「建築と都市計画はもっとソフトになる必要がある」と解説した本です。実際に著者の Sim 先生とも会った帖佐教諭は、同じビルのアパートでもそれぞれ個性のある部屋造り、海岸の石も形や大きさもいつもそこを歩き拾う人のことを考えてあえてバラバラに、こういったことから「自分だけの」という感覚を大切にしているスウェーデンのまちづくりの仕掛けについて話を聞きました。これこそシビックプライド（愛着を持ち誇りを感じる）につながる取り組みです。教員もまちづくりに対しての視点はさまざまです。そしてまちづくりは、それぞれ違う視点から取り組まれていることもわかりました。

書籍「助けて」と言える国へ・・・朴元阿怜教諭

朴元教諭が育った東京の高田馬場では、子供のころに公園で酔っ払いや浮浪者が寝ているという光景があったそうです。それは現在になって思うと実は共に生きているという感覚だったかもしれません。そういった人々は街から排除された結果どこへ行ったのでしょうか。この本は著者の奥田牧師がホームレスの支援活動を通して「困窮者支援とは『強い人が弱い人を助ける』ということではなく、弱い人間同士が共に生きることである」ことを見つめ直そうとした一冊です。

書籍「シビックプライド」・・・坂下淳一教諭

アムステルダム、バルセロナなどさまざまな都市の街の取り組みを紹介しています。この中で、坂下教諭も訪ねたこととなるアムステルダム、自転車で街を巡ると住んでみたらきっとワクワクするだろうなという感覚になりました。自転車優先、図書館、美術館、すべての取り組みを包み込むようにして、住民が街を誇りに思う気持ちを高揚させる様々な仕掛けがあったようです。まちづくりといっても様々な視点からのアプローチがあります。広く社会を見て、自分はどこで貢献できるか将来の専門を考えるとということも良いかもしれません。

【3】大阪公立大学 准教授 武田重昭先生講演について

次回の SSS 講座では、武田先生の講演を予定しています。事前学習として知っておきたいことを学びます。武田先生は実際に第一線でまちづくりに関わる専門的な知見を持つ方です。そして先生のご研究の中にはまちづくりに関するワクワクする Keyword が登場します。自分だけが心地よく魅力を感じているのではなく、街全体が魅力的、そこに住む皆が

心地よく生活できること、それがパブリックライフだとおっしゃいます。

大阪公立大学 生命環境科学研究科 緑地環境科学分野

武田 重昭先生の研究内容について

住宅団地やニュータウン等の計画的に整備された集住環境におけるオープンスペースをはじめとする都市の緑地空間を対象として、その空間形態とそこでの生活行動や運営の仕組みとの関係性を分析し、保全・継承すべき緑地環境の特質を明らかにするとともに社会状況の変化に対応した活用の方法や生活者の新しい関わり方によるマネジメント手法について研究を行っています。

(大阪公立大学ホームページより)

人生と都市を魅力的にする「パブリックライフ」について研究しています。UR 都市機構、兵庫県立人と自然の博物館を経て、現職。共著書に『シビックプライド』『いま、都市をつくる仕事』『都市を変える水辺アクション』ほか。共訳書に『パブリックライフ学入門』
(武田先生の Twitter アカウントより)

武田先生のお話から街や都市についての、新しい視点について学んでもらいます。

★魅力的なまちとはどのようなまちなのか、住みやすいまちとの違いは何だろうか。

★コミュニケーションをデザインするとは

★パブリックライフをデザインするとは

自分自身はどう思うか、また豊かな人生を歩むためにまちはどう関わるのか、何よりどんな街に住みたいか、意見をまとめてみましょう。そうすればイメージがつかみやすくなり、講演への理解も深まると思います。



講演をきくにあたっては、講師の方は講演のために準備をされて来られますので、せっかくの機会にここでしかできない質問、この先生にしか聞けない質問をしましょう。きちんと理解したうえでの質問、聞かれた側がどう受け取るかという想像力を働かせることが必要です。

本日の課題

武田先生の研究の中で、興味を持った内容または質問したい内容をグーグルフォームに記入してください。武田先生にも事前に共有しますので、先生の講演に組み込んでもらえるかもしれません。せっくなのでこの先生にしか聞けない質問がいいですね。先生の書籍、また紹介するリンクを参照してください。

https://book.gakugei-pub.co.jp/campaign/covid-19_takeda/ コロナ関連特別寄稿

https://yumenavi.info/lecture_sp.aspx?GNKCD=g009563&OraSeq=44&ProId=WNA002_Sp&SerKbn=Z&SearchMod=2&Page=1&Keyword=%E6%99%AF%E8%A6%B3 夢ナビ 風景をデザインする

<https://citylabtokyo.jp/2020/09/18/200920-eventreport-aiba-takeda/> City Lab Tokyo

2024/06/07 SSS 講演/授業（高校1年生）

1-3 武田重昭先生の講演、街の魅力とは、スライドの作成

これまでの講座で、「まちづくり」にはさまざまな視点があることに気づいたと思います。今日は隣接する同志社大学の講義室にて、探究学習の一環としてまちづくりについてさらに学習を深めていきます。前半は教員が興味のあるまちのイベントや書籍の紹介と課題「いろいろな街の魅力を見つけよう！」に取り組み後半は大阪公立大学の准教授、武田重昭先生の講演を、ご滞在中のベルギーからオンラインで拝聴します。講演の最後には生徒たちが予め用意をした質問に答えていただき、まちづくりについて理解を深める大変貴重な時間となりました。

【1】教員が興味をもつまちのイベントや書籍の紹介（前回の続き）

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」北川浩司教諭
京都の町中が舞台となり開催される、日本でも数少ない国際的な写真祭。地元の商店街の店員が作品に入り込むなど、身近な生活が作品になるところが面白い。これもひとつのシビックプライド。



「北アルプス国際芸術祭」吉田恵都子教諭
長野県の信濃大町（大町市）で3年に一度開催される芸術祭。自然と調和された小さいまちでの開催だが経済効果は大きい。先生がまちづくりに興味をもったきっかけとなるイベントです。今年、2024年9月13日より開催されるのでぜひ興味のある人はチェックしてください。

「社会の変わり方 日本の政治をあきらめていたすべての人へ」前明石市長 泉房穂著 谷口健太教諭
独自のこども政策「5つの無料化」やまちづくりの取り組みにより、子育て世代の人口が増え、まちの経済に効果をもたらす。政治の視点から、まちづくりや社会を変える方法について考える一冊。



【2】住んでいる（住んでいた）まちの魅力



ワークシートを使って、自分が住んでいる（住んでいた）まちの魅力を見つける課題に取り組みます。まちの人口、暮らし・環境、文化・教育、観光・産業などあらゆる分野について調べ、生徒同士でそれぞれのまちの情報を交換し、日本や世界各地のどのようなまちに魅力を感じ、どのようなまちに住んでみたいかを考えます。

日本や世界の様々な地域に住んでいた経験のある生徒たちの会話が弾み、「将来こんなところに住みたい！」と夢が膨らむ時間でした。

ここで、夏休みに取り組む課題について説明がありました。

課題：自分が住んでいる（住んでいた）まちの魅力を伝えるスライドを1枚作成する。

スライドを作る際の注意点：

- ・まちが重点的に取り組んでいる政策や課題を入れて、観光案内などではなく、「住む」という視点でまちの魅力を伝えるスライドにする。
- ・スライドを作るときは、まちの魅力を発信するために、写真や図形など、視覚的なものを有効に利用する。



教員のレクチャーより学んだことを実践して、まちの魅力を効果的に発信するスライド作りに挑戦しましょう。夏休み明けに各クラスでプレゼンテーションをしてもらいます。

【3】大阪公立大学 准教授 武田重昭先生講演の質問について



武田先生に本校で講演をしていただくのは4年目です。先生は今回も生徒たちが用意した質問に事前に目を通し、講演のご準備をしてくださっています。

生徒たちから集まった質問の中には、先生の記事を読んでしっかりと考えられた質問やまちづくりを進めていく過程で問題点を問いかけている質問、素朴だがしっかりと研究者目線で問いかけている質問など、考えた抜いた、個性のある質問が多く見受けられました。

これらの質問の中から、今日武田先生がどの質問に答えてくださるのか、楽しみにしたいと思います。

【4】大阪公立大学 准教授 武田重昭先生講演

武田先生は緑地計画学（Landscape Architecture）を専門に研究され、多くのまちづくりの実例を通してシビックプライドの構築について書籍や多くの講演等で発信を続けておられます。現在はベルギーのブリュッセル自由大学にて在外研究中にも関わらず、私たちの講座のために朝早くからオンラインで講演をしてくださいました。武田先生と繋がった瞬間に「武田先生～」と手を振る生徒たちに同じく答えてくださいました。



【武田先生の講演のテーマ】

●魅力的なまちとは

さまざまな都市の写真とともに検証しました。例えばブリュッセルのグランプラス、デンマークのコペンハーゲン中心街、ニューヨークのタイムズスクエア、タイのアートセンター前、パリのオープンカフェ、大阪の駅前グランフロントなど。

●魅力的なまちの風景はどのようにつくられているか

まちがどうかというよりも、そこにいる人たちの営みがキラキラしているか。単なる空間ではなく、さまざまな人たちの人生が集まって作られている場所、人の暮らしが映し出されているまちであるか。例えば滞在しているブリュッセルは多国籍の人たちが集まっているので、アジア人の自分もいてもいいんだという安心感があるとおっしゃっていました。

●魅力的なまちの風景はどうやってつくられるか

私たちは、緑、水辺、光、風など基盤である自然と共存して恵みを感じているなかで、風景は建物など人工的なものとのバランスをいかに取るかがポイント。これを「存在効果」と呼び、そこにいる人々の暮らしぶりと合わせて魅力的と認識すること。また「利用効果」というのは、その場所を利用することでさらに価値が高まっていくこと。先生がもっとも大切だと思うことは「波及効果」であり、これはその公共空間がまちにどのような効果があり影響を及ぼすかということ。効果があればこれがシビックプライドを生み、賑わいや安心を生み、よいコミュニティ形成にもつながります。

●住む地域に誇りや愛着を感じるか

日本の現状として半数の人が住んでいる地域に誇りや愛着を感じていないというデータあります。枚方の例では、よいまちにするための活動に参加したいかという問いに対して、したくない人が7割近くいました。どうにかこの状況が変わることが望まれます。

●シビックプライドとは

市民が自分のまちに対して持つ誇りや愛着を意味します。自分が都市を構成する一員としての自覚を持っていて、当事者意識があること。シビックプライドを育てるには、やはり教育が大きな影響を及ぼします。アムステルダムの「I amsterdam」キャンペーンのように「I love Amsterdam」ではなく、自分自身がアムステルダムといったような意識付けをするようなものもあります。自分の人生そのものがまちであるといった一体感の芽生え、専門家のこういった都市と人々のコミュニケーションをデザインする役割りもあります。



➡まちをどうやって使うか想像をすることが大切！

日本ではプライベートライフの充実が豊かさだという認識が強いですが、海外ではパブリックライフを充実させることイコール豊かさであるように感じています。実際に、タイムズスクエアやメルボルンの中心街に代表されるように、全面歩道化となり人々の集まる場所を作ることが世界的なムーブメントにもなっています。先生の住むブリュッセルの大きな目貫通りも全面歩道化され、かつては交通が行き交った交差点も交差点ごとに個性豊かなベンチやオープンカフェのスペースが施されています。まちのデザインが変わるということは暮らしが変わるということを実感します。日本の春の花見は実は日本人がパブリックスペースを最も有効に活用している実例だといえそうです。

●質問タイム

Q1. 自分も好きになるまちをつくる、専門家は職業としてどのような工夫がありますか？

A. 私の考える前提はあくまで作る人、使う人の区別はなし、あなたもみんな作っている人！この意識を変えていきたいと思っています。専門家としては、ニーズに応えるだけではなく、先のことを考えてより高めていく、発想を示していくことが大切。その際にはそれぞれのまちの個性や文化、歴史を大切にしたいという気持ちがあります。



Q2. 日本に住みながらアフリカや後進国の人たちを助けられますか？

A. ブリュッセルに住んでいると公用語も2か国語、民族も多様、自国のことだけを考えるという感覚がそもそも薄いです。日本との感覚の違いを感じていますが、日本は多くの技術を後進国に輸出しています。それでも決して後進国の日本化ではなく、日本が緑地保全などの失敗した点を後進国では繰り返さないサポートができると考えています。

Q3. シビックプライドが低い日本人、いま自分に何かできることはありますか？

A. シビックプライドは持てといわれて持てるものではないです。育てるものです。そのた

めには、コミュニケーションが大切。高校生ならではの、何か発信できること、おもしろい発想などあればぜひ提案してみたいです。小さくでもアクションを！

Q4. 京都に小学生の時に引っ越してきて以来まだ疎外感を感じています。地元のイベントなど人と交わる努力もしてきたので悩んでいます。何か解決策のアドバイスを頂けますか？

A. 京都が合わなければそれでもいいと思う気持ちを持ってください。それでもいいのです。人それぞれ好きなものは違う、あなたに合う場所、コミュニティを見つければそれでいいのだと思います。もし人付き合いが苦手であっても、美術館や公園など空間を通して程よい距離を保ちつつ人と居心地よくつながることができる、都市とのコミュニケーションを通して育むシビックプライドというのも私が考える理想です。



●先生のお話の中で印象に残ったことを紹介します。

☆“パブリックライフを育むのは“人”

パブリックライフとは、公共空間で他者と直接的・間接的にかかわりを持ちながら過ごす社会的な生活のことを言います。清流のある美しい自然環境にWi-Fiを設置してリモートワークができるようにした徳島県神山町の実例があり

ます。美しい自然環境でクリエイティブな仕事、生活がしたいと若者が集まり人口がV字回復したのです。

☆“10,000人の1回より100人の100回を！”

賑わいや盛り上がりを求めて大規模なイベントを1回だけ開催するよりも、小規模なイベントを、回数を増やすことで日常的な出来事とし、出会いのきっかけを増やすことでまちはより魅力的となります。昨日より今日、今日より明日が少しずつよくなるといったことがずっと続くまちのほうが、最終的には良いまちになると考えられます。

☆“まちをつくるのは、市民のまちに対する誇りや愛着！”

現在の大阪城は市民の寄付によって再建されたものです。また市立吹田市サッカースタジアムは市民や企業からの寄付金などで建設されています。自分たちでこのまちを良くするんだ、という自負心や気概が大切であり、それによってまちに対する誇りや愛着、シビックプライドが生まれます。この誇りや愛着こそがまちの魅力の根幹であり、まちの原動力、そして持続可能性に必要なものであるといえます。

☆“まちの魅力となり持続可能なまちをつくるのはあなたです！”

誰かにつくってもらうのではなく、自分たちがつくることで、まちのことをもっと好きに、もっと身近に、もっと自分のこととして、感じられるようになります。

素晴らしい講義と、生徒たちの質問にも気兼ねなく答えてくださり、貴重なお時間を本当にありがとうございました。今日の課題は講演を振り返り、レポート作成です。

2024/07/11 SSS 授業（高校1年生）

1-4 シビックプライドと住んでいる（いた）まちの魅力

大阪公立大学 准教授 武田重昭先生講演のふりかえり

前回の講座では大阪公立大学の武田重昭先生が遠く離れたベルギーとオンラインでつながり講演を行っていただき、生徒たちはシビックプライドとまちの魅力について考える貴重な機会を得ました。今回の講座では、その講演や1学期の講座を教員とふりかえり、最後に夏休みの課題の説明を聞いて1学期の講座を締めくくりました。

● 武田重昭先生講演のふりかえり 帖佐教諭

皆さんが提出してくれた講演のコメントの中には、講演の内容から発展させて、いろんなことを考えたり、これまでの授業の取り組みとつなげて考えられていました。まちづくり、まちに対する見方や意識が変わった、これからの自分のまちの取り組みに役立てたいといった前向きな感想が多くみられました。コメントの一部をご紹介します。

私は先生の講演を聞くまで、活気ある、憧れる街はその街自体に価値があり、街がキラキラしていると考えていましたが、先生の「良い街とは街がキラキラしてるのではなく、人の生活がキラキラしてみえる」ということを聞き、納得した自分がいました。つまり、街は人の生活をサポートするものだということを知りました。そして、そういう街を作るには人々の動きやお互いのコミュニケーションが必要であり、広場を使ったイベントや車道を歩行道路にしたり、人が自然と人と関われるような環境を市民が積み重ねていくのが大事だと気付かされました。

私は京田辺市に住んでいるのですが、小学6年生の頃、紙ごみの分別を推薦するポスターを京田辺市役所の公式 Facebook に載せてもらったことがあります。その時に市役所の人とコミュニケーションをとり、より良い街になるようにと行動したことを思い出しました。高校生の谷さんの行ったワークショップなどの行動を聞いて、何もできないと思い込んでいた自分に可能性を感じることができました。今の日本は十分に市民、住民が希望を言い出せない環境、国民全体の考え方、雰囲気があると感じているので、これからの日本では積極的に人と都市とがコミュニケーションをとり、理想のまちづくり、自分や町のことが好きになれる良いまちづくりができる世の中になればいいなと思います。

今回の講演を聞いて思ったことは大きく分けて二つあり、一つ目はまちづくりを権力のある人だけに任せないということです。講演の中で武田先生は弱いネットワークをたくさん作り街を作る方が1人の権力者が支配して作るより良いと仰っていました。また、リーダーシップよりフォロワーシップを重要にすべきだとも仰っていました。私

はこれに非常に賛成して、またまちづくりには私もその土地に住む一員として積極的に参加するべきだと思いました。今まで街は誰かが作ってくれると思っていたり、まちづくりは私には関係ないと思っていましたが、やはり市民が住みやすいと思う街にするには何が必要か、Molen west の例のように意見を出し合い、自分たちでやりたいことを作っていく姿勢が重要だと感じました。二つ目はコミュニケーションを大切にすることです。

ただでさえ日本は自分のまちに対するシビックプライドがなく、自己肯定感が低い人が多いので、パブリックライフが盛んなまちが日本にもより多くあったら良いと思いました。武田先生のお話の中で一番驚いたのが、シビックプライドやパブリックライフは時に人の命を助けられるということです。愛する人と愛する場所があれば、自分も愛せる、「ここにいる私の性格が好き」と思えるようなまち作りをしてみたいです。

● 「自己紹介」の分析 谷口教諭



第1回 SSS の講座の時に生徒の皆さんに答えてもらった「自己紹介」のアンケートについてテキストマイニングという手法を用いて分析をしました。テキストマイニングとは、データマイニング(機械学習や統計解析によって有益な情報を得ること)のうち、テキスト(文章)を対象として分析を行うものです。自由記述で答えてもらった回答の中でよく出てきたテキ

ストが画面上に大きく表示される仕組みです。インターネット上のサイトで誰でも利用できます。このような分析方法があることを知り、研究を進めるにあたって、ご自分の1つのアカデミックスキルとして活用してください。

● アンケートに取り組む際の注意点 坂下教諭

今回生徒の皆さんにアンケートに答えてもらい、谷口教諭から面白い結果を見せてもらいました。これから生徒の皆さんがアンケートを作ったり、答えたり、その結果を見るときに注意してほしいことがあります。例えば大学の満足度ランキングのアンケートで、理由が「焼きたてのパンを食べられるから」といった理由の場合、大学の本質的なところが見えてきません。アンケートを



作る際にはその本質的な良さを引き出し、うまく自分の資料にできるように心がけてほしいと思います。アンケートの意図が伝わり、答えてもらっているかというような懸念もありますので、これを決定打にするのはよくありません。世の中のアンケート内容や結果もよく見ると、不思議なことがあります。そのような視点を持ってほしいと思います。

● 夏休みの課題について 吉田教諭



夏休みの課題は、自分の住んでいる（住んでいた）まちの魅力、またはお友達が住んでいる（住んでいた）街の魅力を伝えるスライドを1枚作成することです。まちが重点的に取り組んでいる政策や課題を入れて、観光案内などではなく、「住む」という視点でまちの魅力を伝えるスライドにしてください。夏休み明けに、授業でプレゼンテーションしてもらい

ます。日本語でも英語でも OK です。いいなとおもったまち、魅力的だなとおもったまちを取り上げるようにしましょう！

● 課題の提出について 朴元教諭、北川教諭

夏休みの課題はグーグルクラスルームに提出してもらいます。夏休みの間に海外に行ってグーグルにアクセスできない生徒は注意してください。また1学期のSSS講座で配布したワークシートは記入をして2学期の最初の講座日に提出してもらいます。欠席をしていた講座は動画を見て取り組んでください。



夏休みは自分たちが住んでいる（住んでいた）まちや興味をもったまちについて見聞を広げるチャンスです。1学期の講座で学んだことをふりかえり、まちの魅力を効果的に発信できるスライド作りに取り組みしましょう。

2024/09/02 SSS 授業（高校1年生）

2-1 In-Class Presentation

高校1年生にとって高校生活初めての夏休みを過ごし、SSS講座から2学期の授業が始まりました。本日の講座は、夏休みの課題であった「街を紹介するPDF作成」の発表です。各クラスで、各自作成したPDFを発表し1分の持ち時間内で補足をします。全員に配布されている評価表の各項目でポイントを多く得た3人がクラス代表として選抜され、次回ホールにて学年全体の前で発表を行う予定です。



発表の前に

PDF の提出にあたっては、いくつか決まり事がありました。提出の期日などの決まり事を守ることは大原則です。教員からコメントを受けた場合にはできる限り早く対応し、「修正しました」「先ほど対応しました」などの一言を添えて再提出することも常識的なマナーです。こういった対応は今後どのような場面においても大切なことですので、これを機会にしっかりと再認識しましょう。発表のメモについては、スマホでは文字も小さく視点が下に向きがちなので、せめて iPad くらいの大きさのもので、また要点のみをまとめたものを用意し、しっかり聴講者の表情を見ながら発表できるようにしましょう。

● 発表

生徒たちが選んだ街は、過去に住んだことのある街や育った街が中心ですが、あるクラスだけをみても、30都市、8か国にも及んでいてそのバラエティはとても豊かです。これは同志社国際ならではの、また PDF についてもその街らしさ、作成者の個性溢れるものでした。これが初めての街紹介だったかもしれませんが、その発表からはもう既に自分の街に対する思い入れや、好きな点を紹介したいという気概に溢れていたことが印象的でした。また生徒たちは他の人が作成する街紹介にも興味深く耳を傾けました。

PDF で紹介された街

高知市、奈良市、橿原市、名古屋市、長久手市、枚方市、京都市、橿原市、大阪市、豊中市、八尾市、横浜市、熊取町、木津川市、京田辺市、柏原市、鳥羽市、ハワイ、アーバイン、レキシントン、ブルームフィールドヒルズ、チャールストン（アメリカ）、ドバイ（アラブ首長国連邦）、ミラノ（イタリア）、香港（中国特別行政区）、長春市、ハルビン市、大連市（中国）、高雄市（台湾）、チューリッヒ（スイス）、プラハ（ハンガリー）など



街紹介の PDF の一部

● 評価について

さまざまな発表を通して PDF を比較すると、ただでさえ情報が伝わりやすいものの特徴があることもわかってきます。デザインや色、文字の大きさ、内容など、今後の参考になる

ものが多くありました。PDF のバックを写真にしたり、文字の色で強調したり、中には「学・住・遊」とキーワードを活用したり、「ちようどええやん」といったキャッチコピーを効果的に繰り返す工夫をしたものもありました。また、評価はあくまで PDF の評価です。評価表の判断項目に沿って、見やすいか、その街の魅力をわかりやすく理解することができるかなどの評価であって発表者の補足における話の上手い下手は今回は除外です。

今回の課題では、改めて街に目を向けるよいきっかけとなり、自分の知っているはずの街を再確認し、人に紹介したいと思うその良さにも気付くことができたようです。またそれに加え、他の人たちの発表から知らなかった街についても興味を持ち、クラスメイトの新しい一面を知る機会にもなりました。これを機にそれぞれの街について話が弾み、そしてそこからさらに街への関心が高まることもあるかもしれません。2 学期は、学校が所在する京田辺市の上村市長をお招きし、どのようなまちづくりをされているか、どのような工夫があるか、また市長ご自身がどのような気持ちで市政に取り組まれているかなどについてお話を伺うことも予定しています。まちづくりを通して考え、調べを進める過程で、自分たちの将来の方向性についてヒントを得られることがあるかもしれません。

2024/10/18 SSS 授業（高校 1 年生）

2-2 京田辺市について ～京田辺市長の講演に向けて

次回の講座では、京田辺市より上村市長にこの講座にお越しいただき講演をしていただきます。京田辺市のまちづくり政策や市長の想いを直接聞くことのできる貴重な機会です。今日はその事前準備として、京田辺市、そして教員が以前にフィールドワークで訪れた特徴のある都市や街を紹介し、比較しながら学びたいと思います。

● 京田辺市・・・北川浩司教諭



この講座の担当のひとりである北川教諭は生まれも育ちも京田辺市、そして京田辺市にある本校で就職という経歴です。その北川教諭より、以前は田辺町であった頃までさかのぼり、過去の写真を見ながら、またその歴史の中で実際に経験したこと、感じたことを伺いながら京田辺市の発展の歩みを振り返りました。

鉄道の開通と町村合併促進法による地域の編成

明治 31 年、地域初の田辺駅（現 JR 京田辺駅）が開設され、その後昭和 27 年には大住駅と上田辺駅（現 JR 三山木駅）が新設された。昭和 30 年代まで無人改札駅、大住はホームのみだった！明治 39 年 田辺村から田辺町へ町制がしかれる。



（大住駅、田辺駅写真 京田辺市ホームページより）

北部の木津川のほとりに木津川水泳場

昭和初期、遊泳場のために夏のみの臨時駅「木津川駅」が開設される。娯楽の少ない時代、また海のない地域で貴重な施設であった。当時年間 17 万人にもものぼる来場者でにぎわった。現在は市民プールや民営の施設がこれに代わる。

村の編入・統合、市制によって京田辺市へ

昭和 26 年、隣接する大住村、三山木村、草内村、普賢寺村を編入・統合し、現在の市域へとなる。平成 9 年には市制を施行し、京田辺市へ市に変わり住所表記が短くなり素直に嬉しかった！（北川）

同志社が京田辺市に

昭和 61 年、同志社大学がこの京田辺市に新しく大学のキャンパスを構える。それに先立ち昭和 55 年同敷地内に同志社国際中学校高等学校も開校する。これを機に若者の人口の割合が急増することにもなった。

京田辺市にとっては、現在に至るまでその発展の歴史の中で同志社の存在はとても大きなものといえるでしょう。大阪、京都のベッドタウンとしての役割も果たし、これまで順調な発展を遂げてきた京田辺市も 2030 年にはピークを迎え将来的には人口減少とともに課題を抱えることが予想されています。皆さんには、ぜひこの社会課題の解決に意識を向けてみて欲しいと思います。

● ドイツ・フライブルク市・・・坂下淳一教諭



坂下教諭は SGH の講座のフィールドワークで環境先進国ドイツのフライブルクを訪れています。フライブルクは、フランス、スイスの国境から近く、中世の街並みが残る南西ドイツの小さな街です。人口は 23 万人、これは近くでいえば寝屋川市の人口とほぼ同じ規模です。日本では、堂安律選手の所属する SC フライブルクの本拠地として知名度がありますが、観光ガイドには載らないような地方都市で

す。それでもフライブルク大学を中心とした学生や大学関係者の多いアカデミックな街で、黒い森の玄関口に位置する市の特徴の一つは環境政策です。旧市街地は自動車の乗り入れを制限しているため、トラムや自転車が人々の交通手段です。環境保護がフライブルク市民の生活の一部となっています。小さいけれど、環境都市、コンパクトシティとして立派な存在感があります。

交通対策 レギオカルテ/低公害交通機関の整備/Park & Ride

レギオカルテという地域環境定期券を発行し、フライブルクと近郊の鉄道、トラム、バスが乗り放題になり、車に乗らなくても移動ができる生活を可能にしている。Park & Ride でも郊外の駅に大型駐車場を設置し、まちの中心部へはトラムで向かう仕組みを整備、また自転車専用道路の充実によっても低公害を実現させている。このゾーニングにより結果的にまちの中心部での歩行者が増え、商店が活性化することに。



廃棄物政策 有料のゴミ箱/包装廃棄物処理/リユース・デポジット

ゴミ箱は市から有料で借りるが大きさによって値段が異なり、小さいゴミ箱を選ぶことで節約、結果的にゴミの量を削減させている。また包装廃棄物は、グリュエネブントなどのマーク表示がある製品については加盟企業がリサイクル可として梱包容器は無料回収されているため、市民もその製品を買う傾向にある。ペットボトルやビン、缶などについても1本につき8〜25セントものデポジット制を導入、回収が促進されている。

エネルギー対策 地域熱供給/コジェネレーション/マイスターランプ/風力発電と小水力発電

共有の熱供給設備から地域へ温水や冷水などの熱媒を配管を通して供給する。その際の燃料の燃焼に伴う発電の廃熱も同時に回収するのがコジェネレーションの仕組みである。電球型蛍光灯を各家庭に無料配布し費用は電気料金で回収したり、専門家を派遣して学校で省エネルギーについて学んだり、散歩道に風力発電や庄水力発電で発電する仕組みがあったりと自然エネルギーや省エネが生活に根付いている。

1970年代に酸性雨によって森が枯れ、その頃に原子力発電所建設の計画が持ち上がったことからその反対運動が起こり、一気に環境保全や自然エネルギー推進の動きが活発化しました。生徒たちとのフィールドワークで訪れた際には、実際の事例を見て回りました。太陽光を受けるために回転する建物ヘリオトープ、住民中心に話し合い環境問題に取り組むコミュニティーであるヴォーバン地区、自然エネルギーで自家発電に取り組むホテルヴィクトリアなどです。学びは、再生可能エネルギーによる発電が進んでいて、住民の理解も得ながら環境問題への取り組みが生活をより豊かにするような工夫があり、それが街の価値も高めていることでした。



● デンマーク・コペンハーゲン市・・・帖佐香織教諭

デンマークは人口約 560 万人、兵庫県とほぼ同じ規模です。欧州大陸に連なるユトランド半島と大小 406 の島で構成され本土はおおむね九州と同程度の広さ、53%の土地は農業用地です。収入の半分を国民は税金として納めていますが、社会保障、福祉制度が充実しているので、国民の幸福度は高く、世界幸福度ランキング2位、SDGs 達成率も世界ランキング2位です。コペンハーゲンは、デンマークの首都で、人口 80 万人の港湾都市。2014 年、欧州委員会から「ヨーロッパの緑の首都」に選出され、2025 年までにカーボンニュートラル実現を公約しています。「世界で最も自転車にやさしい都市」のトップに選ばれています。帖佐教諭が SSD のフィールドワークでコペンハーゲンを生徒たちと訪れた際にも感じた住民の何気ない日常を楽しむといった人々のウェルビーイングが実現されているということでした。

グリーンモビリティ 自転車政策と充実した公共交通機関で環境に配慮した移動を実現。

自転車・歩行者優先と中心市街地の活性化 快適に安価に移動することは住民の権利。

その他 コペンヒル・・・ゴミ処理場を市民が憩える場所として提案している。

都市型屋上農園/市民農園・・・人々が集えるレストランやカフェも併設されている。
 アブサロン教会・・・使っていない教会を公共の場として利用、寄付された素材で調理される相席の夕食、文化的な催しなど。
 ヤンテの掟・・・生き方のガイドラインのようなものがあり、英語で直訳すると「You are not more than what you are」という教え。1 番を目指さない、でもさばらない国民性の礎。

人間中心の都市、住民が「不安も不満もない」と言えるまちづくりについて多くのヒントを得た都市でした。



● 来週の市長の講演に向けた課題・・・朴元姍怜教諭

京田辺市長への京田辺市の政策に関する質問を考えましょう。貴重な時間を無駄にしないよう、自分で調べたらわかることは聞きません。京田辺市のホームページにある「ほっと京たなべ」をみると京田辺市の取り組みがよくわかります。京都市と比較してみたり、市長の政策のコラムもあるので事前に見ておくことをお勧めします。



【広報ほっと京たなべ10月号】

<https://www.city.kyotanabe.lg.jp/cmsfiles/contents/0000021/21482/2410.pdf>

● 2 年生選択科目 SSR、3 年生選択科目 SSD について

2 年生（Sustainable Society Research）では

1 年生で学んだまちづくりについての基礎的な知識やアカデミックスキルをもとにして、専門的な書籍を皆で読み、内容をまとめて発表、ディスカッションをして問題解決方法論を学びます。国内外のまちづくりの先行事例について学んだり、外部講師による特別講義もあります。

3 年生（Sustainable Society Design）では

2 年生の学びをもとにして、グループでのプロジェクトや個人のリサーチプロジェクトに取り組みます。また 2 年間を通じて、リサーチブックを作成したり、海外（ヨーロッパなど）でのフィールドワークに参加したり、自治体や企業にみなで考えた政策や企画を提言したり、東京での全国高校生フォーラムでリサーチプロジェクトの成果を発表する機会もあります。

3 年間を通じて得るアカデミックスキルは大学でどのような専攻をしても活かすことができるのでぜひ検討、そしてチャレンジしてください！

2024/10/31 SSS 授業/講演（高校 1 年生）

2-3 京田辺市について ～生徒によるプレゼンテーション・上村崇市長講演～

今日は「探求学習の日」の取り組みとして、隣接する同志社大学の講義室で「まちづくりとは」をテーマに 1 日講義を行います。前半はクラス代表によるスライド発表とまちづくりの先進事例についてのレクチャーを、後半は京田辺市の上村崇市長をお迎えして講演を行っていただきます。私たちが通う京田辺市のまちづくりについて事前に学習し、生徒たちは胸を膨らませてこの日を迎えました。京田辺市長からどのようなお話が聞けるのか、楽しみです。



～今日の講座～

1. 「住んでいる（住んでいた）まちについて」
 - －まちの魅力、政策、課題などについてのスライド発表（クラス代表）
2. まちづくりの先進事例について学ぶ
 - －徳島県神山町、東京都渋谷区の先進的な政策、取り組みについて

3. 京田辺市長への質問項目、講義の聴き方、メモの取り方について
4. 京田辺市 上村市長講演、質疑応答など
5. 市長へのお礼、感想を記述

1. 「住んでいる（た）まちについて」

ーまちの魅力、政策、課題などについてのスライド発表（クラス代表）

はじめに各クラスで代表に選ばれた生徒たちが自分の住んでいる（いた）まちのスライドを発表します。国内は新潟、福岡、西宮、八尾、伊丹、大津、海外はマドリード、パシフィック・パリセーズ(LA)、パリ、ミュンヘン、ドバイ、ハルピン、アーバイン、シンガポール、スリランカ、カンザス、ニューヨークなど、今年も国際色豊かなまちのプレゼンテーションとなりました。そのスライドの一部をご紹介します。



〈スライド作りで工夫したポイント〉

- ・情報量が多すぎるとわかりにくくなるのであえてシンプルにした
 - ・重要な部分をハイライトしたり、色付けをした
 - ・ご当地キャラクターの色とスライドの背景の色を統一して、見る人にそのまちの印象が残りやすくなるように工夫した
 - ・まちへの愛着心が伝わるように、自分が撮影した写真だけを使うようにした
 - ・「学・住・遊」のカテゴリーに分けて、それぞれを掘り下げてまちの良さを伝えた
- どの生徒もまちの魅力を最大限に引き出すために様々な工夫をし、スライド作成スキル

の高さが伺えました。また自分の言葉でしっかりと話し、まちへのシビックプライドがしっかりと伝わってくる発表でもありました。中にはまちの名前をデザインした T シャツを作って着てくる生徒も。自分が住むまちへの熱い思いをアピールしていたのが印象的でした。

【教員のコメント】

- ・実際に住んでいたまちに対する発表者のシビックプライドが感じられて、そのまちに住んでみたいと思えるように上手にアピールできていた。情報量を絞ってシンプルにすることも自分の考えが反映されていてよい。
- ・みんなの心がのっていて、すごく伝わってくる発表だった。
- ・これまでの SSS 講座の中で最も良い発表だった。自分の言葉で話し、そのまちの弱点も話すことによって信頼性も上がる。素晴らしい発表だった。
- ・今回代表に選ばれたスライドはもちろん、選ばれなかった生徒のスライドにも優れたスライドがたくさんあった。

発表を聞いている生徒たちも、発表されたスライドや効果的なプレゼンテーションに刺激を受け、多くの学びを得た時間になったことでしょう。この学びをこれからの取り組みに活かしてもらいたいと思います。

2. まちづくりの先進事例について学ぶ

ー徳島県神山町、東京都渋谷区の先進的な政策、取り組みについて

つぎに SSS の担当教員より、まちづくりの先進事例について学びます。

● 「まちづくりの先進事例～徳島県神山町～」吉田教諭

徳島県神山町は大阪から高速バスで 1 時間半、徳島市内から車で 45 分の場所に位置し、人口は約 5,000 人で消滅可能都市のひとつとされるまちです。人口減少が続き、学校の廃校、公共交通機関の廃線、行政業務の維持が困難になるなどの危機感が迫る中、まちを変えていこうと人々が動き、その取り組みが大変注目されているまちです。



☆ どのようにまちづくりがスタートしたか？

神山町生まれの大南信也氏がキーパーソンとなり、2004 年に NPO 法人グリーンバレーを立ち上げ、「日本の田舎をステキに変える！」をミッションに神山町で新しい事業を展開したまちづくりに取り組む。

→人々を魅了し、都会から若者が次々と移住してくる！

☆ 神山町が魅力的なまちづくりのために柱としている 6 つの働きかけ

- ① すまいづくり
- ② ひとづくり
- ③ しごとづくり
- ④ 循環のしくみづくり
- ⑤ 安心な暮らしづくり
- ⑥ 関係づくり

☆ 具体的な取り組みの事例

- ・ Hidden Library – 住民のみが入れる図書館で、古本を持ってきて図書館に預け、それを貸し借りすることで図書館に愛着を持てるよう工夫されている。
- ・ 神山しずくプロジェクト – 木製のデザイン性の高い商品を考案し、販売することによってまちのイメージアップにつなげる
- ・ WEEK 神山 – 長閑な環境にある宿泊施設で、宿泊の他に研修やリモートワークなどができる。

小さいまちであっても、様々な分野においてイノベーションを起こすことにより持続可能なまちづくりができることを神山町の事例から学ぶことができました。

● 「まちづくりの先進事例 ～東京都渋谷区再開発～」 坂下教諭



渋谷区は多くの人が集まってくるまちです。すでにまちの開発はされていますが、老朽化が進んでいるために様々な問題を解決しようと再開発が行われています。どのような取り組みがなされているのでしょうか。株式会社日建設計の都市計画担当、金行美佳さんに話を伺いました。

☆ 渋谷再開発

- ・ 委員会の発足・・・公共施設と民間の力を活用

渋谷区は個人所有の土地は少なく、多くは東急グループのものであり、協力的に再構築が可能。渋谷区役所、東急、日建設計による委員会を立ち上げ、都市計画の研究者の意見も参考にして再開発計画を進める。

- ・ アーバンコアによる上下移動

渋谷に集まる人々は属性がさまざまであるので、行きたいところにストレスなく移動できるように、渋谷の地形（谷）を利用したアーバンコアによる上下移動ができるビルを建設。

- ・ 宮下公園の改修

渋谷駅の北側に位置する全長 330m の宮下公園はニューヨークのハイラインを参考にして改修され、MIYASHITA PARK として生まれ変わる。

渋谷区の再開発は多くの人が気持ちよくまちに足を運べるように工夫をしていることがわかりました。また神山町と渋谷区の2つの事例から、まちの規模や課題によって、解決策や政策も大きく異なることもわかりました。

次は私たちの学校が所在する京田辺市でどのようなまちづくりがなされているのか、京田辺市の政策や課題について上村市長から直接お話を伺います。

3. 京田辺市長への質問項目、講義の聴き方、メモの取り方について

☆ 京田辺市長への質問項目

前回の SSS 講座で生徒のみなさんに考えてもらった京田辺市長への質問の一部を事前に京田辺市長にお送りしています。今年もしっかりと考えて書かれていた質問が多く見られました。今日の講演で市長がどの質問を取り上げてくださるのか楽しみです。

☆ 講義の聴き方、メモの取り方、質問のしかたについて

講演を聞くときには聞く側の姿勢が大事です。また授業や講演はみんなで作るものであって、一方的に話を聞いているだけではあまりうまくいきません。今回も講演の最後に直接質問をする時間をとります。ワークシートにある注意点に気を付けて質問をしましょう。



4. 京田辺市 上村崇市長講演 ～人のつながりを重視したまちづくり～



公務でお忙しい中、京田辺市の上村崇市長をお招きしてお話を伺う貴重な機会を得ました。上村市長は同志社香里高校、同志社大学のご出身です。今回は市長であり政治家の視点から、京田辺のまちづくりについてお話をしてくださいました。司会担当の生徒たちが今日の司会進行を務めます。

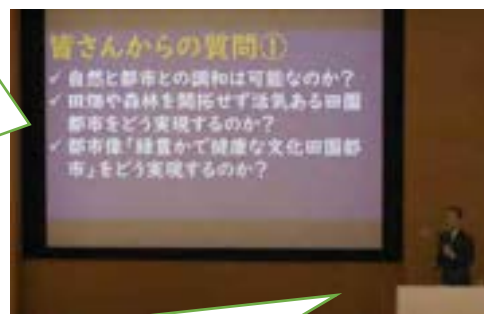
事前にお送りしていた生徒たちの質問に対して、項目ごとに丁寧に答えながら、解説も交えて講演を進めてくださいました。

その内容を抜粋してご紹介します。

● まちづくり理論からみた京田辺市のまちづくり

① 「田園都市」

京田辺市は 1984 年から「緑豊かで健康な文化田園都市」（田園都市はエベネザー・ハワード提唱）をまちづくりの方針とし、30 年以上にわたりこの都市像を目指したまちづくりを進めている。



「町・いなか」を作ることによって社会と自然を結合させることができ、都市部よりも大きな「魅力」を示すことにつながる。

② 「コンパクトシティ」

京田辺市を北部（松井山手駅周辺）、中部（新田辺・京田辺駅周辺）、南部（三山木駅周辺）の 3 地域に分けて、人が集まれる拠点をつくり、ここを中核にしてコンパクトなまちを形成してきた。

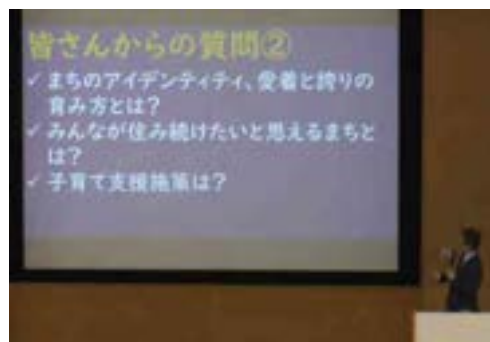


カルロス・モレノの「15 分都市」の理論に基づいて、市街化区域内の住宅地は一部の地域を除いて路線バスで最寄りの鉄道駅まで 10 分以内でアクセス可能とするコンパクトなまちづくりに取り組んでいる。→ SDGs へ貢献

今後、人口が減少している他のまちの取り組みをみながら、次に私たちが抱えるであろう課題にどのように向き合っていくかを考えることが課題である。

● 市制 25 周年

京田辺市は市制 25 周年を迎え、人口は国勢調査で 13 回連続で増加し、生産年齢人口が多いまち。一方で、これから何も対策を取らなければ将来、消滅可能性自治体になるまちとされている。実際に京田辺市の出生数は減少しているので、まちとしても子供が増えるような施策を進めていかないといけない。



● 人とひとがつながり、参画できる仕掛けづくり

南部まちづくりセンター「ミライロ」

駅前の銀行跡地を利用した地域住民が気軽に集えるコミュニティスペースで、カフェやライブラリー、イベントスペース、市民活動等の相談窓口併設

- ・地域子育て支援センター「はぐはぐルーム松井山手」－駅前の商業施設を活用して子育て支援環境を整備
- ・京たなべ「玉露庵」－京田辺市で生産している玉露の体験型観光情報発信拠点
- ・京田辺市学校給食センター「はぐぐみ」の完成 中学校での給食をスタート

京田辺市民まつり「たなフェス」の開催

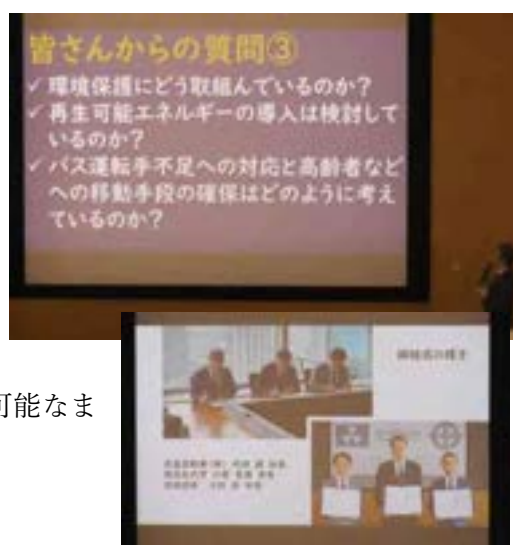
来場者に楽しんで帰ってもらうための工夫をしている。
このまちに思い出を作ってもらい、それを次の世代につな
げ、京田辺市に愛着をもってもらうための取り組みのひと
つ。同志社大学の校内でも京田辺市内の企業が出展して体
験などができるブースを開設予定。

株式会社明治京都工場ブースの様子
(同志社大学構内)



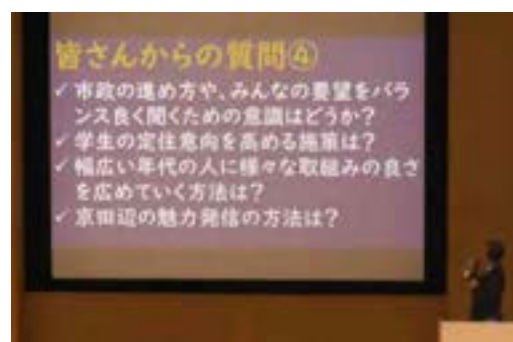
● 地球温暖化政策

- ・ゼロカーボンシティ宣言・プラごみ削減推進連携協定を締結
- ・京田辺市・同志社大学・日産自動車株式会社が3者連携協定を締結。オンデマンド交通及び将来的な自動運転実装も含め、地域課題解決に向けた地域交通の在り方を共同検討する。→エネルギーマネジメント・モビリティサービス基盤を三者で作り、持続可能なまちづくりを目指す。



● 市民満足度調査

4年毎にまちづくりプランを見直し、市民サービス向上に取り組むために市民満足度調査を行っている。「京田辺市に住み続けたい」人は9割にのぼる。理由は、自然環境が良いこと、交通の便が良いこと、住み慣れて愛着があることが多くを占めている。



● 魅力発信・参画と人のつながりによるまちづくりの推進

市民みらいミーティング」開催

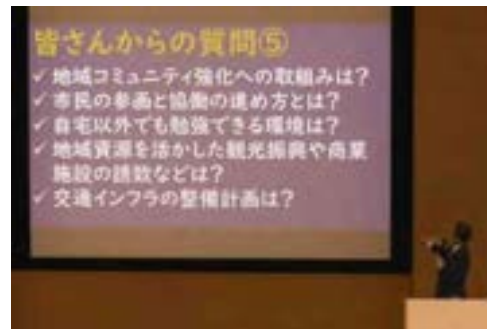
京田辺市民や京田辺に通勤・通学する方が参加して意見交換を行う。

「ぜひ同志社国際の生徒のみなさんと何かやりましょう。おもしろい話ができると思います。」

京田辺市×パルクールプロモーション動画作成

● 南部まちづくりセンター「～ミライロ～」

地域住民が普段から気軽に集まり、市民と協働で魅力を創出するコミュニティスペース。小学生、中学生が宿題や勉強をする場にもなっている。子どもたちが友達を増やして不安を減らせる居場所作りが自発的にできている。



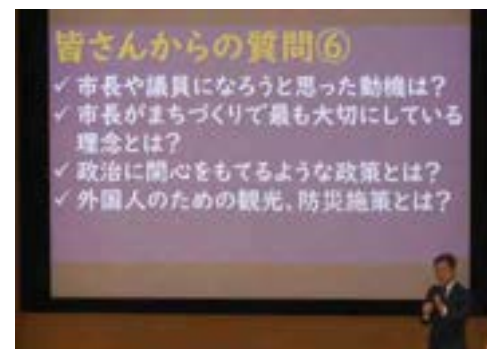
● 高いポテンシャルを生かし、より一層活力と交流のあるまちをつくる

- ・京田辺クロスパーク「タナクロ」
誰もが輝く農福連携公園の整備
- ・複合型公共施設整備事業
- ・けいはんなフードテックヒルの開発
食とテクノロジーを融合した企業の誘致
- ・北陸新幹線の延伸



● まちづくりで最も大切にしている理念

人と人とのつながりを作ることが大事。それを作るのは難しいが、困っている人に対して「放っておけない」「助けてあげたい」という気持ち、気付きを多くの市民の方にもっていただけるようなまちをつくっていきたい。



● 政治に関心をもてるような政策とは?

「まちがこうあってほしい」という意見やみなさんが持っている感性みたいなものを市民みらいミーティングなどの場で逆に教えてもらえたらうれしい。

その後の質疑応答タイムでは、多くの生徒が挙手をして上村市長に質問をしました。その一部をご紹介します。



Q1. いろんな対策をしても人口が減少するまちが多い中、京田辺市は人口が増えつつある理由として、今まで取り組んだ政策の中で何か他の地域とは違った政策をされましたか。

A. 京田辺市の人口が増え続けている大きな理由として、大規模な住宅開発がされ続けてきたことがあります。しかしそれには限度があるので、1人でも2人でも多く、今住んでいる人たちがまちに残ることがまちを継続させるきっ

かけになると考え、その施策に取り組んでいます。

Q2. 京田辺市民にこれから次の世代も京田辺市に住み続けてもらいたいとおっしゃいましたが、他にもできることがありましたら教えてください。

A. 全て行政が解決できるわけではありません。市民のひとりひとりの気付きの積み重ねが地域の支え合いの分厚さにつながります。市民のみなさんに、より関わってもらうことで暮らしやすいまちになると考えます。助け合い、やさしさのあるまちになるための気持ちをもってもらえたらと思います。

上村市長が京田辺市を愛し、人々の暮らしをよくするために日々考えられていることが、市長の温かみのあるお言葉から伝わってきました。最後に司会担当の生徒より、感謝の気持ちを込めて、講演の感想を述べました。

- ・ ミライロのような子どもたちが一緒に宿題に取り組める場所があるといいな、と思いました。
- ・ 自分の住んでいるまちのアイデンティティを見つけようという目標ができて、より SSS の授業の内容が深まりました。
- ・ 今まで都会がベストだと思っていましたが、「町・いなか」という考え方が僕にとって新しい考えで、まちづくりを次の世代につなぐためにそのような考えが必要だと学びました。



【講演を終えて】

上村市長には京田辺市の魅力やこれからの課題と政策についてお話いただき、市長のまちづくりへの熱い思いが私たちに伝わりました。まちづくりは一方的に行政に投げかけるのではなく、市民がまちづくりに参画していくことの大切さも教えてください、新たな気付きがありました。上村市長や京田辺市職員の方々には今回の講演のために準備をしてくださり、貴重なお時間をいただきましたことを心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

2024/12/05 SSS 授業（高校1年生）

2-4 市長の講演感想、まちづくりの先進事例 その2

今日は2学期最後のSSS講座です。上村京田辺市長の講演を終え、生徒たちから寄せられた感想を共有し、講演をふり返ります。また3学期にはこれまでの学習を踏まえて京田辺市へ政策提案をしてもらう予定ですが、その政策提案をするための準備として、冬休み中に取り組んでもらう課題の説明がありました。



～今日の講座～

1. 京田辺市 上村市長講演の感想
2. まちづくりの先進事例の紹介 ～富山県富山市～
3. 京田辺市への政策提案
4. 課題について

【京田辺市 上村市長講演の感想】

先日の上村市長の講演後に寄せられた生徒たちの感想から、市長のまちづくりへの思いが生徒たちにしっかりと伝わっていることが読み取れました。いくつか抜粋してご紹介します。

・私は、上村市長のお話をきいて、京田辺、そしてまちづくりに対するマインドセットが変わりました。私は現在、京都に住んでいて、前に住んでいたところも観光都市だったため、いいまちとは、たくさんの観光客が訪れるような観光地などが魅力的なまちだと勘違いしていました。しかし、京田辺市のように、市民の暮らしやすさを色々な人の意見をまじえながら考え、改善していくまちもすごくいいまちだということに気づくことができました。逆に、その地域の仲の良さや交流の温かさが羨ましくなりました。京田辺市の地域交流について聞いているうちに、私も、何らかの地域交流に参加してみたいと思うようになりました。私はあまり交流会などに積極的な方ではないうえ、私の住んでいる地域は近所の人とも交流がなく冷めた雰囲気ですが、近所の人と話したり、交流会に参加したりするところから始めてみたいと思います。

・今回の市長のお話を聞いて、知らなかったことや、私が京田辺に対してあった先入観がすべて解けました。そのほかで、すごく印象に残っていることは、京田辺の最大の課題は、政治家がすべて解決してくれると思っていることと、市長が仰っていました。これは私達がこれまでずっと勉強していたシビックプライドに当てはまると思いました。具体的に説

明すると、自分自身は「その街に住んでいる」と思っているだけでその街に対して自分ができるかなどの意識がとても低いことです。京田辺もそのような事柄が起こっているんだ、と今まで勉強していたことがつながった気がしました。上村市長、先生方、今回も貴重な経験をありがとうございました。

第一線で活躍されている市長の話を直接聞くことで、多くの生徒のまちづくりに対する考え方が変わり、私たちが住むまちでこれから何ができるのか、考えるきっかけをいただきました。改めて上村市長には貴重なお時間をいただき、感謝いたします。

【まちづくりの先進事例 ～富山県富山市～ 北川教諭】

次にまちづくりの先進事例として、中核都市として位置づけられている富山県富山市の取り組みを見ていきます。実際に富山市を訪れた教員よりレクチャーを受けました。



富山市・・・

- ・人口約 42 万人の中核都市。約 10 年前をピークに人口は減少し、郊外のインフラ等を維持、管理していくことが難しくなっている。
- ・まちづくりの仕掛け人は、2002 年より約 20 年間市長をしていた森前富山市長。人口減少が続く中、これ以上人口が郊外へ拡散することなく、中心に人が集まるように、車社会から公共交通機関を使った暮らしにシフトするなど、将来の市民のために今、やらなければならないことに取り組む。

具体的には・・・

- ・「公共交通機関を軸としたコンパクトなまちづくり」を推進し、2006 年 LRT(次世代型路面電車システム)を日本で初めて導入。

- ・“AMAZING TOYAMA”プロジェクト

富山市におけるシビックプライドのキーワード。ポスターやパンフレット、車のナンバープレートのデザイン等に使用したり、市内各所にモニュメントを配置して住民のシビックプライドを高めている。(写真は富山市ホームページより)



その他にサイクル・シェアのシステムや、まちの中で花束を買って電車に乗ると無料になるなど、「私も住みたい」といってもらえるまちづくりに取り組んでいる。

【京田辺市への政策提案】

3 学期には、これまでの SSS 講座で学んできたことを踏まえて京田辺市への政策提案を

行います。「勉強する場所がない」、「通学路がこんな感じだといいな」など、効果や実現のしやすさなども考慮しながら、何より自分たちが「こういう政策が実施されれば嬉しい」と思うような取り組みを自由に考えてみましょう。自分だけが得をするような政策を提案しても実現はしないので、みんなが便利に感じたり、シビックプライドが高まったりという政策になっていることが大事です。また、地方自治体でできるようなことでないといけません。まちを実際に歩いたり、京田辺市のウェブサイトを見てみるのもいいでしょう。

冬休みの課題：

京田辺市への政策提案で取り組んでみたい政策・テーマについて、内容と理由を記入して提出する。

2025/01/07・0123 SSS 授業（高校1年生）

3-1, 3-2 京田辺市への政策提案

3学期に入り高校1年生のSSS講座も残りわずかとなりました。これまで生徒たちは国内外のまちづくりの先進事例について学び、実際に京田辺市長の講演を聴く機会を得ました。3学期は1年の学習のまとめとして、京田辺市に提案してみたい政策を考え、発表します。



先に生徒たちには、京田辺市に「こんな政策があったらよりよいまちになるのではないか？」ということを考えてもらい、その内容と理由を記入した課題を提出してもらいました。6クラスある中で、ここではB組で取り上げられた政策テーマ（グループ）を紹介します。



テーマ：

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 環境 | 5. 福祉・高齢者 |
| 2. 交通 | 6. 防犯・安全 |
| 3. 交流 | 7. ゴミ問題 |
| 4. 子育て・教育 | 8. 京田辺市PR・広報 |

【政策提案プレゼンテーションまでの流れ】

- 1) テーマ毎にグループを作り、グループ内でひとりひとりが考えた政策案とその政策実施により解決できる課題をシェアし、最終的にグループで1つの政策案を決める。
- 2) その政策案についてグループ内で調べたり、考えたりする。
- 3) グループの中で指導や指示役を担うリーダーとリーダー補佐を決め、役割分担をして政策案をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。

【目標】

- ・論理的思考、問題解決能力を養う
- ・プレゼンテーションの方法論を身に着ける
- ・グループワークの方法論を身に着ける

グループでは、それぞれの政策テーマの中で注目する問題点、政策の目標、内容、手段について話し合い、提案したい政策について自由に意見交換をします。他の自治体が行っている同じような政策と効果について調べたり、京田辺市がその課題に対してすでに行っている政策があるか、またその課題に対してどう考えているかなどについて調べることも大切です。また市のレベルでは決められないことなどもあるし、逆に国から補助金などを使えるような政策などもあるかもしれません。

グループリーダーやリーダー補佐は、グループメンバーの長所や短所、関心事を理解して自分と違うやり方をする人も認めて信頼しつつ、確認することが重要です。



教室では和気藹々と相談しながら話を進めるグループ、黙々と調べものをしながら作業を進めるグループ、積極的に先生に相談をするグループなど、いろいろなグループが見られました。

2月にクラス内プレゼンテーションを行い、そこで選ばれたクラス代表のグループは、3月に実際に京田辺市の職員の方の前で政策案を発表してもらう予定です。みなさんが考えた政策がもしかしたら本当に実現されるかもしれません！どのような政策案が提案されるか楽しみです。

3-3 In Class Presentation

これまでに京田辺市へ政策提案をするためにグループで話し合い、発表のために準備をしてきました。今日は各クラスで、すべてのグループがプレゼンテーション形式の発表を行いました。また聞いている生徒たちは評価表に沿って記入し、その評価をもとに投票した形となって、後日代表チームが発表されることになっています。

● クラス内発表

発表はスライドを使い、3分以内で課題の提起から政策の提案内容まで説明をします。

● 発表の評価ポイント

生徒たちの手元には評価シートがあり、発表を聞いて評価の観点を考慮してメモを取ります。最後には、全体の評価を振り返り、総合的にクラス代表としてふさわしい政策案をひとりひとりが決定して提出します。

評価項目：実現性・実用性/費用対効果（効果・コスト）/独自性（独創的・画期的）/公平性・平等性/将来性（持続・維持）



● 発表 — ここではF組とD組の一部の発表をご紹介します。

【未来へ走れみどりばす】



京田辺は田舎だという心象があるが落ち着いた静かな街並みが魅力ともいえる。そこで街の雰囲気を守りながら静かで環境負荷の少ない最新の電気自動バスを走らせることを提案します。街の課題をバスの路線や本数の少なさによる不便さ、そして対外的な街の認知度の低さと捉えました。資金面では、燃料の電気への移行による燃料費削減と自動運転による人件費削減に加えて、国からの補助金、スポンサーからの広告収入、運賃、また電気ステーションの貸出しをすることでも収入を見込みます。初期費用はこういった収入が合計2億9千万円を見込んでいて回収できると試算しました。利点としては、利便性の高まり、経済活動の活性化、電気バスに加えて電気自動車も増えることを見込んだ自然保護、なにより静かな街と未来のモビリティという新しい街の付加価値が生まれ、シビックプライドも向上すると考えました。京田辺市が開催した市民みらいミーティングのテーマのひとつで、「公共交通の充実に取り組むこと」を目的としたキャッチフレーズ「便利でええやん京田辺」にも沿った提案だと考えます。

京田辺市が開催した市民みらいミーティングのテーマのひとつで、「公共交通の充実に取り組むこと」を目的としたキャッチフレーズ「便利でええやん京田辺」にも沿った提案だと考えます。

【スポーツイベントの提案～地域の絆を深めよう～】

よりよい地域づくりを目指し、ミニ運動会の定期的な実施を提案します。運動不足や人の繋がり希薄化による将来の不安、街に設備が整っているにも関わらずそういった公共の場をうまく活用できていないことを課題と捉えました。運動会では地域内のコミュニケーションによる人の繋がりができ、それによる災害時の安心感、幸福度や住みよさの向上による満足度が得られることが期待されます。その他、運動施設や施設周辺の店舗などの収入の向上による経済活動の活発化も見込んでいます。市民の繋がりを維持できるか、一度きりのイベントではなく継続性が重要だと考えます。既存の公共スペースで幅広い年代が集まって交流できる場を作り、多様な市民同士のつながりを構築していくことを目指しています。



【京田辺で高齢者に第二の青春を】



現在の京田辺市の高齢者のための場所作り政策に加えて、さらに政策を充実させるための老人学校の開校を提案します。高齢化は京田辺市に関わらず社会の大きな課題です。健康寿命を延ばすことが課題であり、増えている高齢者の孤独死、またその孤独が死因の大きな理由の1つでもあることに注目しました。老人学校は、誰もが感じるどこかに所属しているという安心感、そして敢えて老人ホームではなく学校であることで高齢者がはつらつと過ごす場所になります。授業では健康

作りも考えます。京田辺市には2万人の高齢者がいて、入学者の確保は十分できると考え、中心部の自治体の既存の施設を利用し教員は高齢者の方であっても良い地域のボランティアを募集します。高齢者となっても社会活動に関わり生き生きと過ごすことができる場所の提供、合理的配慮のある街になってほしいという願いを込めています。

【TANABE SPOT PROJECT】

京田辺市における災害時の電力復旧までの対策の強化を図ることを目的とし、インテリジェント照明の設置、普及を提案します。近い将来に、巨大災害、南海トラフ地震の発生が危惧され、また気候変動による自然災害は毎日のように起こっています。街の災害対策の充実は市民に安心感を与えるばかりではなく、街の価値も高めると考えました。インテリジェント照明は、災害時はもちろんさまざまな制御



が可能、暗い場所ではさらに明るくといったことも可能にします。また耐久性が長いので持続可能性があることが利点ですが、初期費用は通常の電気と比べると照明器具費用が3倍、設置費用が2倍かかります。その問題は、エネルギー効率が高くエネルギー消費が低いという特徴があることから将来的にはコスト削減が期待できると考えています。また工事においては設置の場所や明るさの影響などから住民の方たちとのコミュニケーションが不可欠な点も利点です。

【Green Action by MoriMoris】



美しい田園都市である京田辺市において自然保護の視点からよりよい生活環境の改善策を提案します。京田辺市は2050年までに市内の二酸化炭素排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティへの参加を表明しています。そこで京田辺市独自といえる対策「Green Action」を考案し、市民が誇りをもって取り組むことを目指しました。具体的には、既存のアプリ「一休さんポイント」を利用し、そこに2つの機能を追加したいと考えています。

アプリ内で溜まったポイントは加盟店で使う以外に京田辺市内の公共交通での移動料金の補助となり、また歩く、公共交通を使う、草花を育てる、といったCO2削減になる行動をすることでもポイントが加算される仕組みです。既存のアプリを使うことで経費はほとんどかからず、課題であるアプリの認知度の低さと、高齢者がアプリを使いこなせていないという点は、市と協力し公共スペースでのアプリの広告や紙ベースのクーポンを併用することで解決できると考えています。

【京田辺の子供たちに明るい未来を】

京田辺市の子供たち、学生が自宅以外で勉強するスペースがほぼないことを課題と捉え、誰でも使うことができる勉強スペースをつくる提案をします。こういったスペースは、利用者どうしの交流や繋がりを生み、相談したり良い刺激をもらったり、がんばろうという学習意欲の向上が期待できます。現在は、図書館では自習が禁止、スタサポという施設ではオープンは週2日のみで人数や時間の制限があります。もちろんカフェでの勉強はお金もかかる他、小中学生には向いていません。勉強スペースをつくるにあたり生じる問題の解決としては、認知度を上げるためにSNSの活用、また実際に小中高を訪問して告知する、そしてスムーズな運用のためにも学年で利用時間を分ける（早い時間は小学生など）、また場所は公民館など公共の施設を間借りし、運営にあたるスタッフは教育学部などの学生を中心としたボランティアを募り持続可能な運営ができると考えています。



【京田辺市観光】



京田辺市の活性化を考え、観光に注目しました。京田辺市を訪れる観光客はまだ近隣地域と比べて少ないことを課題と捉え、その理由を市では認知度が低い、魅力を十分にPRできていないと分析しています。そこで集客につながる SNS を活用した四季折々の企画の発信を提案します。春は馬坂川の 800 m にわたる桜並木で夜桜鑑賞と玉露アイスを楽しむ、夏は田辺公園での茶文化を知る体験型のお祭り、

秋は一休寺での紅葉のトンネル鑑賞と玉露を味わう、そして冬は田辺公園で京田辺ならではのデザインを模した幻想的なイルミネーションの鑑賞など、各季節の京田辺の魅力を発信します。SNS で拡散してくれた人には抽選で特産品をプレゼントし、周知される工夫をします。既に京田辺市にある文化的な遺産や特産品、また施設を利用することで大きな初期投資もいらず、イベントにかかる費用は一部税金、参加企業からの協賛金、出展者からの協力金を得ることで、一丸となって市の魅力を発信します。

● 発表を終えて

一部の紹介でしたが、すべてのグループが自分たちの発案し考えた提案を緊張しながらも、全員が全員の前で発表するといった貴重な経験となりました。厳しい質問もありましたが、懸命に答えるも困る場面がありましたが、どの提案にもまだまだ改善の余地もあり、課題を解決していけば、よりよい提案となる発表ばかりでした。

【教員より】

質疑応答は違った視点に気付く貴重な機会。提案するにあたっては、こういうことを知っておかないといけない、こういうことを準備しておかないといけないと気付かされることも多かったと思います。当たり前のことをするのではなく、新しい工夫といった想像力も必要です。これから何か企画する際に、この経験がよい練習となって必ず生かされるときがくると思います。大変な思いもしながら、皆さんの発想から素晴らしい提案が生まれる可能性が秘められています。



● これからの予定

評価シートを集計後、クラス代表のチームが決まります。代表になったチームは、今日のクラスメイト達からの意見を参考にさらに内容をブラッシュアップして、来月の全体発表の準備をします。全体発表には京田辺市役所市民参画課の職員の方にもお越しいただき、提案を直接聴いていただく大変貴重な機会となります。

2025/03/07 SSS 授業（高校1年生）

3-4 京田辺市への提言/SSSで学んだことの振り返り

今日は1年間取り組んできたSSS(Sustainable Society Study)最後の講座でした。京田辺市の市民参画課から小野原課長と寺本係長の2名のご担当者をお招きし、生徒たちがこれまで学んできた社会課題の解決の方法やまちづくりに関する事柄をもとに、京田辺市への提案を発表する貴重な機会となりました。その後、まとめとして、この講座で自分たちが何を学んできたか、最後の振り返りをしました。

【発表】

各クラスの選抜を勝ち抜いた6チームが、1チームずつプレゼンテーション形式で京田辺市への提案を行いました。自分たちの解決したいまちの課題に対して、具体的なデータや数字を基にし、利点や課題も整理した上で、パワーポイントにも工夫を凝らして説得力のある提案をまとめていました。また、他地域を訪れた際にまちづくりの視点から観察をしたり、実際に地域に役立つ具体的かつ実現可能なアイデアを話し合い、生徒たちの「まちをより良くしたい」という意欲が反映された発表となりました。

各チームのテーマ

A組「リノベーションでまちを明るく」

B組「TANABIKEで走ろう」

C組「レンタルサイクル レンタルサイクルを第三の公共交通機関に」

D組「京田辺市地域交流 京田辺ガーベラ's」

E組「南海トラフ地震などの自然災害への対策」

F組「未来へ走れみどりばす」

提案1 リノベーションでまちを明るく！



街の清潔感を保つ視点から、空き家問題、ゴミ問題、道の駅における課題を解決し、それぞれのリノベーションでまちの美化と活性化を目指す提案です。

政策①：空き家登録ウェブサイトのリノベーション
空き家問題の解決には地域住民と行政の連携が重要です。学生が多い京田辺市ならではのアプローチとして、現在停滞している空き家の登録サイトを活性化させるため、学生が関わり、ウェブサイトの充実を図ります。

さらに学生のニーズに応じた空き家活用の提案が行えると考えました。

政策②：ゴミ収集のリノベーション

ゴミ問題への対策として、カラスなどによるゴミ荒らしを防止するため、地域内に専用のゴミ BOX を設置します。これらのゴミ BOX のデザインは、地域の子供たちが担当し、地域の特色を反映させたものにすることで、地域のつながりの強化も期待できます。

政策③：道の駅のリノベーション

道の駅の活性化を図るため、地元名産品である玉露の PR 強化が重要です。玉露の認知度を高めるため、お茶農家での宿泊体験や、茶の木オーナー制度を導入し、玉露の魅力を直接体験できる機会を提供します。JAPAN ブランド育成支援事業の活用も検討しています。

提案2 TANABIKE で走ろう



京田辺市のバスの本数、路線が少ないという課題に対して、新たな交通手段として最新の電動自転車や電動カートの導入と利用促進を提案します。

政策：電動自転車・電動カートのレンタルサービスの導入

バスの本数を増やすことは、人件費や運行コストの増加という面で大きな負担となります。そのため、初期投資が必要であるものの、誰もが気軽に移動で

きる手段として電動自転車とカートのレンタルサービスを充実させます。高齢者や学生、市民には特別な料金を設定し、交通手段のアクセシビリティを向上させます。観光客向けには、京田辺の名所である一休寺や茶畑、散歩道などを巡るコースを整備し、これらを積極的に PR します。これにより、市民の移動の利便性が向上し、満足度が高まると共に、観光客の増加も期待できます。

さらに、電動自転車や電動カート（TANABIKE）が市内を走ることで、京田辺市の新たなシンボルとして認知され、市の魅力と付加価値を高めることができると考えています。

提案3 レンタルサイクル



例えば学校帰りに交通面で不便さを感じたことはありませんか？京田辺市では、日常的にバスの本数や路線の少なさから移動の不便さを感じている市民が多いと考え、この課題に対して、より便利な移動手段としてレンタサイクルの充実を提案します。現在、京田辺市にあるレンタサイクルは台数が少なく、稼働率も低いため、主に観光目的での利用に限定されており、日常的な利用には不向きです。そこで、台湾

のレンタサイクルの成功例を参考にし、京田辺市におけるレンタサイクル導入のメリットとデメリットを検討しました。デメリットを解消するために、低価格での運用、アプリがなくても交通系 IC カードでの利用を可能に、ステーションや台数の増加を図り、利便性のよい場所に設置する必要があります。初期投資は必要ですが、稼働率を高める工夫を施し、市

民が日常的に利用する交通手段として定着すれば、交通の不便さが解消され、京田辺市の暮らしやすさが向上すると考えています。

提案4 京田辺市地域交流 京田辺ガーベラ's



京田辺市の地域交流をより活発にしたいと考えて提案します。タイトルにもある「ガーベラ」は親しみやすい花であり、この花をシンボルにした市民の交流の場作りをします。京田辺市が抱える課題である空き地の増加、農業従事者の高齢化と後継者不足の解決に向けて、空き地を活用し、幅広い年齢層の人々が集まる場を作り出すことが重要です。最終的には、その場所に集まる若者たちが中心となり、農業の後継者が誕生することを目指します。空き地の利用方法としては、地域の皆さんと一緒に花を植える、家庭菜園を楽しむなど、気軽に参加できる活動を行います。これには、市の協力を得て、農機具の貸出しなど、より多くの市民が参加しやすくします。こうした活動は、地域コミュニティの絆を深めるだけでなく、農業に対する関心を高め、後継者育成にもつながると考えています。地域の活性化に向けたイベントとしては、田辺中央体育館や公民館の活用を推進し、映画観賞会などを開催して、地域の人々が集まりやすい場所を提供します。こうしたイベントを通じて、人々のコミュニケーションが生まれ、地域活性化の促進が期待できます。これまでの学びを踏まえ、まちの活性化には人々のつながりが欠かせないと感じており、この提案はその一環としての活動です。

提案5 南海トラフ地震などの自然災害への対策



大災害に備えるまちづくりという観点からの提案です。もし南海トラフ地震が発生すれば、京田辺市でも震度5強から6弱が予想されています。災害は予測できず突然襲ってくるため、その瞬間に誰もが焦り、動揺してしまうのが現実です。命の安全を守るためには、いざという時にどう行動すべきか、どこへ避難すべきかを事前に知っておくことが非常に重要です。そこで、年齢に関係なく、誰もが簡単に理解できる形で情報を提供する方法を考案しました。例えば、普段何気なく目にしていない場所に避難情報を掲示することです。具体的には、マンホールの蓋やペットボトルのラベル、道路標識、ジムの自転車のフレームなど、日常的に目にする場所に避難場所や避難経路を表示します。これにより、普段から自然と情報が目に入るようになり、いざという時に冷静に行動できるようになります。このような情報提供が、災害時に迅速かつ的確な判断を下す助けとなり、命を守るための重要な手段になると考えています。

提案6 未来へ走れみどりばす



京田辺市は静か落ち着いている、そこを京田辺市の良さと捉え、京田辺市に静かな未来のバスを走らせるという提案です。交通の便の悪さ、公共交通の利用者減で自動車利用による排気ガス増加、高齢化による交通機関へのニーズの高まりといった課題の解決を目指します。未来のバスというのは、電気で走行、自動運転をします。バスの導入には初期投資がかかりますが、ガソリンから電気への移行によるコスト削減、自動運転による人件費削減、コンセプトに協賛してくれる企業の広告収入などで回収できると考えました。このバスの導入により、利便性の向上、地域の活性化、環境負荷の削減が期待でき、地域の付加価値を高めることができます。また未来型バスは京田辺市のシンボルとなり、シビックプライドの向上にもつながると考えています。「便利でええやん京田辺」という市のキャッチフレーズにも合致し、市民や音連れ溜人にとって魅力的な提案だと考えています。

【講評】京田辺市民参画課 小野原課長と寺本係長より

発表後、京田辺市のお2人から講評をいただきました。提案が地域課題を的確に捉え、データに裏付けられた説得力があり、財政面の考慮もされていた点を高く評価していただきました。高校生ならではの楽しい要素や視点、実はまちづくりに市民が関わってもらうためにはこういった要素が必要であるとコメントをいただきました。さらに、プレゼンテーションが大変上手く、大学生の発表にも劣らないとの嬉しい評価もいただき、生徒たちの自信にもつながりました。

実際に市の担当者の方に聞いていただいたことで、「私たちには関係ない」ではなく、若い力が地域の未来を創るための第一歩となることに気付く素晴らしい機会となりました。

【まとめ】講座で学んだことを教員より振り返り

● 知識・内容

- ・何かプロジェクトに取り組む際の基本的な知識や、裏付け、専門家の意見を聞くなどの土台となる部分やプロセス
- ・新しいことを知ると物の見方が変わる
- ・物事を決める際には対立ではなく、話し合いが重要
- ・自分は何を見て何を経験したかが学びに活きてくる
- ・アドバイスを言う、聞くことで新しい視点に気付く貴重な機会が得られる
- ・「誰かがやってくれる」と考えるのではなく、自分も関わるができるという気づき



- ・何を持って前に進むのかを考えると、自ずと「知る」ことに意欲が湧く

● アカデミック・スキルズ

- ・どんなに素晴らしい発表や資料を準備しても、期限を守らなければ評価は0に！
- ・講演を聴く際には、事前の調査と的確な質問を準備し機会を逃さない
- ・スライドやポスター制作における工夫(同じ内容でも伝わり方や理解度が大きく変わる)
- ・問題の解決はひらめきや思い付きではできない、論理性、そして順序立てた整理が不可欠
- ・探究や研究をするにあたり、先行研究の確認や批判的思考などの分析が重要

● 社会との関わり

- ・内容を伝える際に、ちょっと楽しくという要素が加わるとより説得力が増す
- ・他者の意見や質問は重要であり、する側もされる側も学びの機会となる
- ・失敗しても成功しても、そのプロセスに注目し、目的意識を持つ
- ・学んだことが物の見方を変えたり深めたりし、行く先々でも興味を持つとそれが積み重なり知見が広がる
- ・自分たちも社会の一員！変えられることを忘れない！

今日の講座には、名古屋より市立桜台高等学校の先生方が本校の SSS の取り組みについて見学にもお越しくださいました。そして多くを学んだ講座も、引き続き SSR を学ぶ高2の生徒たち以外は終了となります。取り組んだ全員が地域課題に対する意識を持ち、今後の社会活動に対する意欲をさらに高めてくれることを期待しています。最後は今日のまとめを提出する課題に取り組みます。



↑同志社大学京田辺キャンパスの教室にて